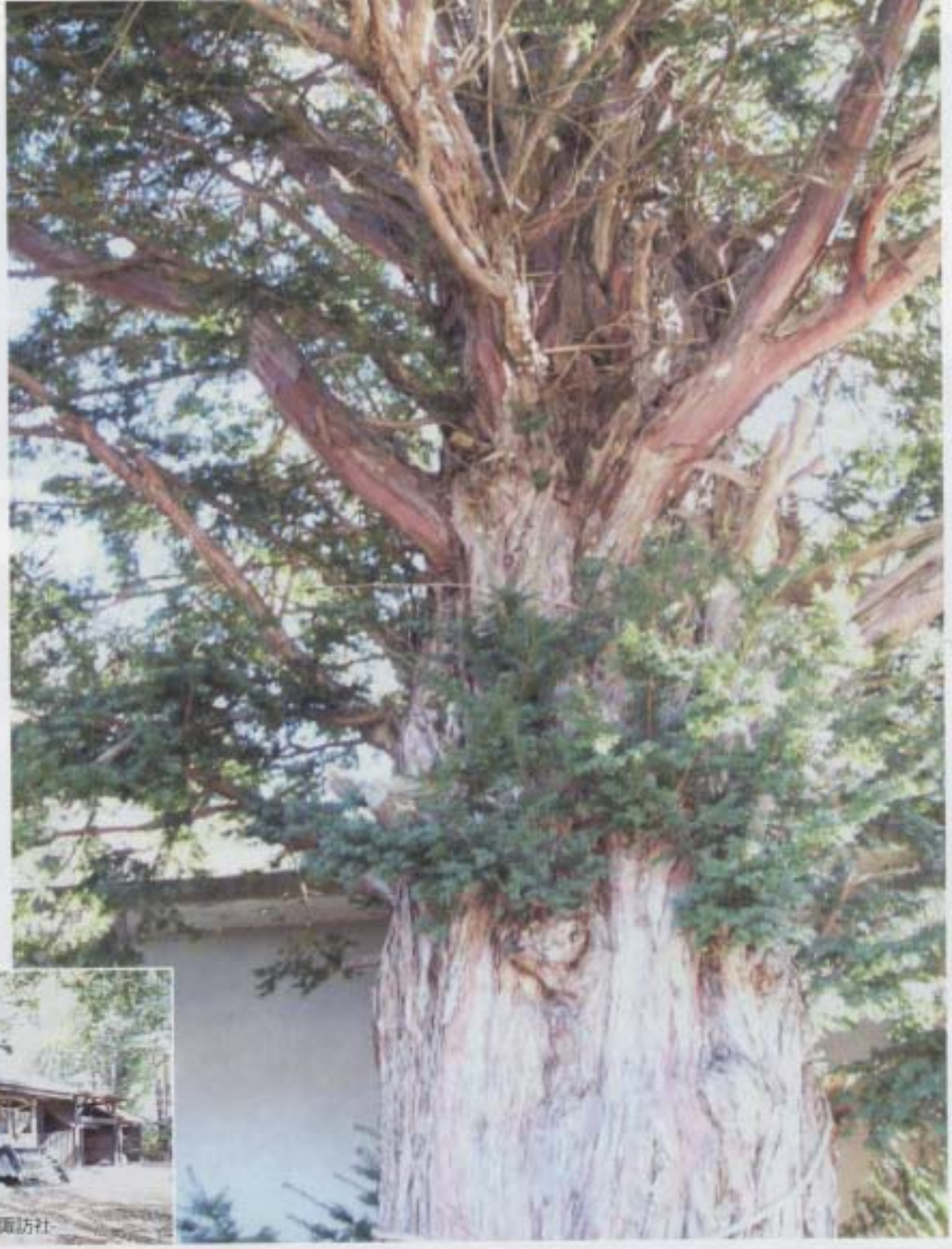
佐久地方の古木を訪ねて　北相木村宮ノ平「諏訪社のイチイ」

イチイ（一位）　別名　トガ、アララギ　イチイ科イチイ属常緑高木
深山に生える常緑高木で川上村には群生地がある。雌雄異株で雌花は秋に熟し、仮種皮は甘くて食べられる。
用途　庭木、建築、彫刻、細工物、櫛など



北相木村諏訪社

この木は北相木村のほぼ中央部で役場より700m程手前の県道沿いの諏訪社にあり、神社の氏子により大切にされてきました。

幹周り3・94m、樹高15m、推定樹齢500年で平成16年5月に村の天然記念物に指定されました。

諏訪社は、室町時代の永禄十一年（一五六八）に当時の領主であった依田民部尉（みんぶのじょう）長繁とその子息によってこの地に建立されたものです。

もともとこの諏訪社は北相木村の御座（おぐら）山にあったものを文亀年間（一五〇一～一五〇三）に同村久保地籍に移した後、現在の地へ建立したと伝えられています。

その後何度か修復が行われましたが、主要部を変えないで今日までその姿のを残している古い社殿は大変珍しく貴重とのことです。

定かな記録はありませんが、樹齢から察すると、このイチイの木は神社建立時既になったものと思われます。

永い年月を神社とともに氏子により大切に守り育てられ大木となったイチイの木、これからも諏訪社のそして地域の財産として、大切に引き継がれて行くことでしょう。

珍しいかたち　カラマツの庭木

このカラマツは、八千穂村八郎の山浦賢治さんのお庭の中央付近にあります。　樹高は2.5m程度ですが、山浦氏によると樹齢200～250年位で毎年葉が落ちてから伸びないように剪定しているとの事です。

カラマツの多い佐久地域でも、庭木で高齢の物は大変めずらしいと思います。お庭全体も大変良く手入れがなされていて、とても素敵です。